

# 平成22年度

## 国有林野事業見学会開催

(中越地震による山地災害復旧現場見学)

関東森林管理局指導普及課は、恒例となっている国有林野事業見学会を6月18日(金)に実施しました。

この見学会は、広く一般の方々にも国有林で取り組んでいる様々な事業を理解していただくことを目的として、公募により参加者を募集して毎年2回実施しています。

今年度第1回目の事業見学会は、平成16年10月23日、新潟県川口町を震源として発生したM6.8の中越地震により、大きな被害を受けた山古志村(現長岡市)と小千谷市において、中越森林管理署が実施している「中越地区直轄地すべり防止事業」の工事現場などを訪れました。

この事業は、中越地震による被災地の早期復旧を図るため、新潟県からの要請を受け、平成17年度から平成26年度までの10年間の工期で、総工事費は約162億円の計画で事業を進めています。



「国有林野事業見学会参加者の皆さん」

今回は、工事開始から5年を経過し、順調に工事が進捗している長岡市濁沢町の「貫(つなぎ)地区」や、平成19年度に工事が完成した小千谷市小栗山の「呼坂(よびさか)地

区」で、国有林が実施してきた工事の概要を現地で詳しく説明したほか、「檜ノ木（ならのき）地区」、「浦ノ山（うらのやま）地区」などをバスの車窓から遠望し、それぞれの工事について説明を行いました。

また、地すべり防止工事現場のほか、水没した状況が今でも見られる木簗（こごも）集落や地震によって埋まった車両の中から、男の子が奇跡的に救出された妙見（みょうけん）の現場などを見学したことから、参加者の皆さんは中越地震の恐ろしさ、被害の大きさを改めて現地で実感されているようでした。



「法枠工などの工事が行われている「貫（つなぎ）地区」の現場」

今回の事業見学会は、地すべり現場において各種工法や技術的な解説など、専門的な説明が主となるため、説明にあたっては一般の方々にも理解しやすいように、治山の専門用語を可能な限り使用しないことや専門用語を使用した場合には、分かりやすく用語の解説を併せて行うことなどに特に配慮して実施しました。その結果、参加者の皆さんから「とても分かりやすい説明で、地すべり工事のことが勉強できた」「地震当時の状況や復旧にあたっての工事の様子が理解できた」などの意見をいただきました。

今後も国有林野事業の取り組みを広く一般の方々に理解していただくため、この見学会を始め様々な機会を捉え、PRに取り組んでいくこととします。



「工事概要の説明を熱心に聞く参加者の皆さん」



「水没した木籠（こごも）集落の様子」